

特別支援教育エリアサポート事業 エリアサポートモデル校

邑楽町立中野小学校の取り組みについて

邑楽町立中野小学校

邑楽町立中野小学校

令和元年度 学校教育目標

社会の変化に主体的に対応し、創造性豊かな知性を持つ、心身ともに健康な子どもを育成する。

- 自ら学び、自ら考える子
- がまん強く、思いやりのある子
- たくましい体力と気力のある子

令和元年度 東部エリアサポートモデル校

〈主な取り組み〉

1. 特配教員による授業実践
2. ケース会議の実施
3. 障害理解教育授業の実践
4. 全ての教員対象研修の実施
5. 保護者対象研修
6. ユニバーサルデザインの発想による環境整備
7. 専門性向上検討会議
8. 指導主事及び専門アドバイザーによるサポート

1. 特配教員による授業実践

テーマ

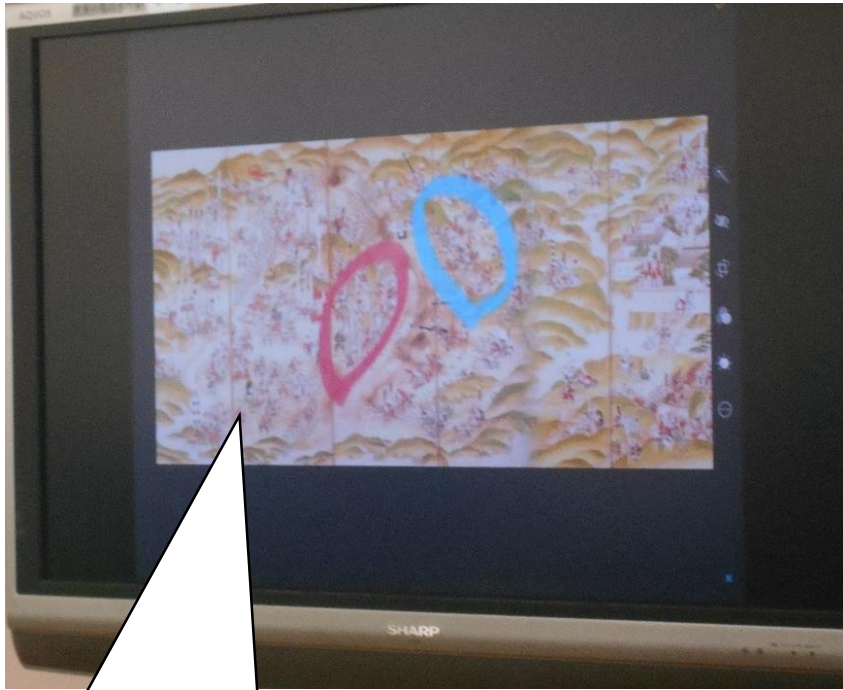
発達障害のあるなしにかかわらず児童一人一人が活躍できる授業の実践

対象クラスと教科

- ・ 6年〇組
- ・ 教科担当制により、社会科の授業で実施

第1回 6月18日実施

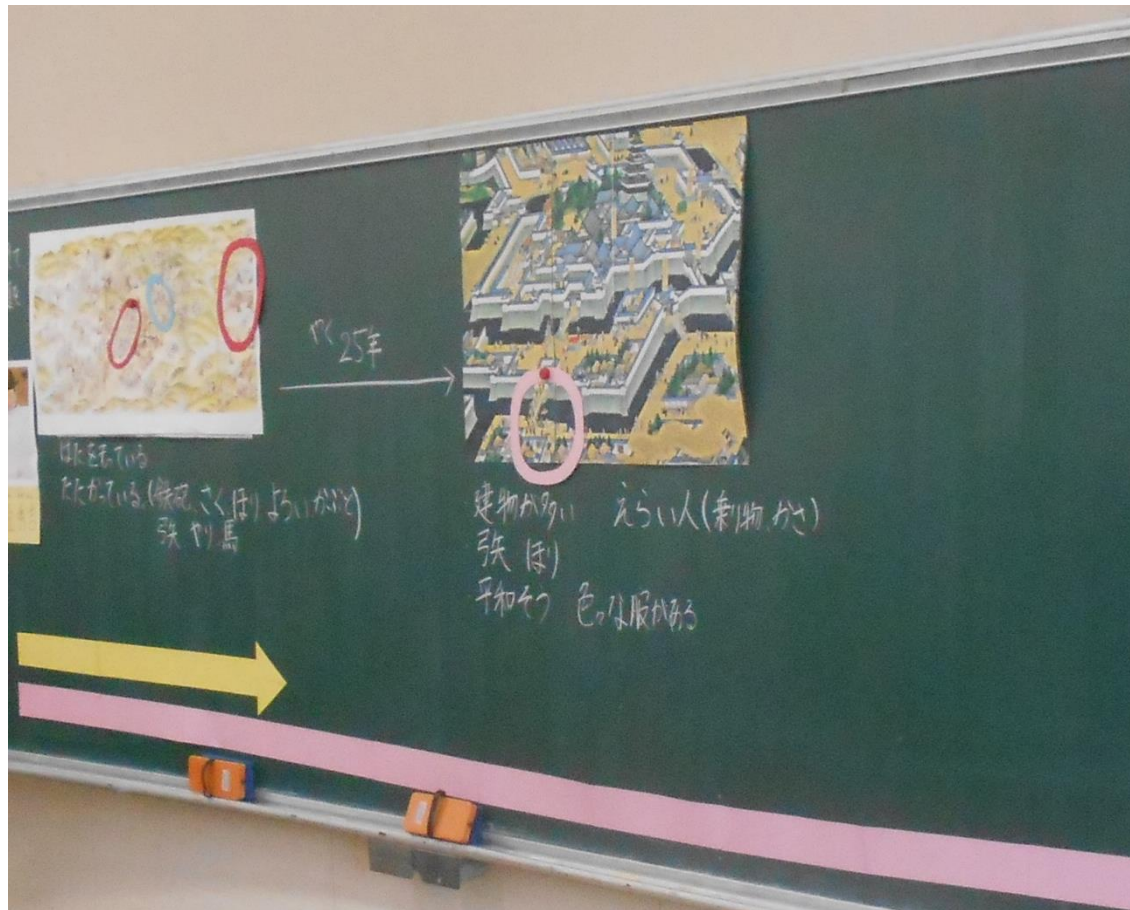
単元「戦国時代と天下統一」の1時間目（単元の導入）



ICTを活用して注目させたい箇所を拡大したり色で囲んだりした。



戦国の世が続いた期間100年間をピンクの矢印
3人の武将が安定した世にするまでにかかった期間25年を黄色の矢印
で表し、25年と100年という数字の比較を視覚的にも捉えられるようにした。



城の周りの様子①



気づいたこと

城の周りの様子②



気づいたこと

視覚的に分かりやすいように、板書とワークシートが同じになるように計画した。

第2回 10月17日実施



単元「国力の充実をめざす日本と国際社会」の4時間目（追究する）

どのように単元を学習していくか流れが分かるように、学習計画を立て、社会の授業の時に提示し、本時の場所を赤矢印で示した。

時間	計画	
1	単元の課題をたてる	
2	計画をたてる	
3	日本の政治	調べる
4	外国との戦争	
5	技術・科学	
6	まとめ(個人)	
7	まとめ(全体) ふりかえり(個人)	

社会科ワークシート A案(指導案に載っている流れのもの) 名前()

めあて

資料①  資料② 

結果

結果

一人一人が事実を調べる

事実から考える

考えたことを基にまとめる

まとめ

ふりかえり

児童がどこを取り組んでいるのか分かるように
調べる→考える→まとめる
という本時の授業展開の流れに沿ったワークシートを用意した。

第3回 1月23日実施

単元「わたしたちの願いと政治のはたらき」の1時間目（単元の導入）



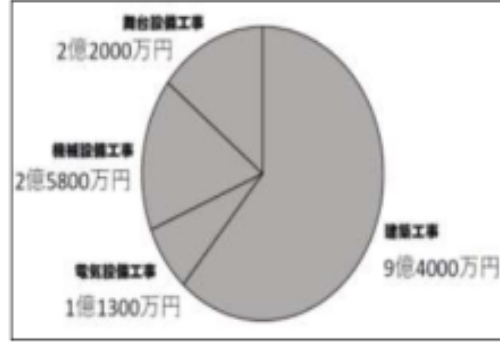
児童の興味・関心が高まるように教材を変更した。
教科書では、東京都足立区の高齢者施設が取り上げられていたが町の公共施設である公民館建設を取り上げた。

めあて

①中央公民館



②邑楽町中央公民館建設にかかった費用



③年表

西暦(年号)	中央公民館にかかわるおもな出来事
1996年(平成8)	公民館利用者などから文化ホール設置の請願が提出
2001年(平成13)	国会で文化芸術振興基本法が可決される
2009年(平成21)	多目的ホールを備えた公民館設置の要望書が提出
2012年(平成24)	中央公民館建設検討委員会が発足
2014年(平成26)	委員会が基本構想・基本計画を策定する
2016年(平成28)	中央公民館の建設開始
2018年(平成30)	中央公民館の完成

中央公民館についての資料をもとに、疑問に思ったことや調べてほしいことを書きましょう。

(なぜ? どのように? だれが? どうして? など)

単元の課題

ふりかえり

疑問に思ったことを
文章に書きやすいように
なぜ? どのように?
などの言葉を載せた。

2. ケース会議の実施

○低中高ブロックに分かれて、ケース会議を行った。

ケース会議というと、とても大変で特別なことのイメージがあったが、今回やってみて思っていたほど大がかりで特別なものではないことが分かりました。慣れてくると、もっと気軽に実施できると思いました。

今後の指導に生かせる思案がたくさん出てきて、協働的に解決策を練る方が実りが多いと思いましたし、一人の児童に対して、多くの先生が目を向けるきっかけになると思いました。



対象児童の対応を考えたり、他の先生のお話を聞いたりすることで、自分のクラスの児童にも生かせることが分かり、本当に勉強になりました。短い時間でできたのもよかったです。

担任だけが明日からの支援を考えるのではなく、対象児童に対して、組織的に「自分の立場でできること」を確認したことが大切だと思いました。

サポートパッケージをアレンジして、
『中野小 ケース会議の進め方』を作成。

中野小 ケース会議

長くても60分！集中！

～準備～

①日程 メンバー を決める。
月 日 時 分～ メンバー

②準備物
情報提供シート（担任が記述）、横道紙、付箋紙、筆記用具、児童写真

～進め方～

1. 事例提供（メンバーに状況を説明する）
 今まで行った支援とその結果について 短時間で 簡単に

2. 情報収集
 たくさんの情報を得るために 一問一答で
 事実のみを（「分かりません」OK）
※その子のよさを引き出すような質問をたくさんしましょう。

3. 検討
 具体的な 関わり合いや支援策を
 ひと言（キーワード）で 付箋紙に書く

例

座席の配慮
(先生のそば)

次のことを
伝える

4. まとめ
 参加者それぞれが 自分の立場で
 明日から何ができるのか
※評価する日は、 ____月 ____日

5. 管理職へ報告
 ケース会議の結果を、すぐに管理職に報告し、理解を得る。（担任）

3. 障害理解教育授業の実践

日 時：令和2年1月10日

場 所：中野小学校 体育館

講 師：石川 京子 先生
(NPO法人リンケージ理事長)

対 象：6年〇組

テーマ：「メンバーそれぞれの良さを知り、
力を合わせて活動しよう」

ねらい：自己理解、他者理解



〈子どもの感想〉

楽しかったです。楽しいだけでなく、仲間と協力したり、助け合ったり色々なことを学びました。

今日の授業を終えて、友だちのいいところや知らなかったことがよく分かりました。

「成功の反対は、この方法ではできないということ学ぶこと」なのだと初めて知りました。



人と協力することを感じられました。これからは、もっと友だちができるかなと思いました。

4. 全ての教員対象研修の実施

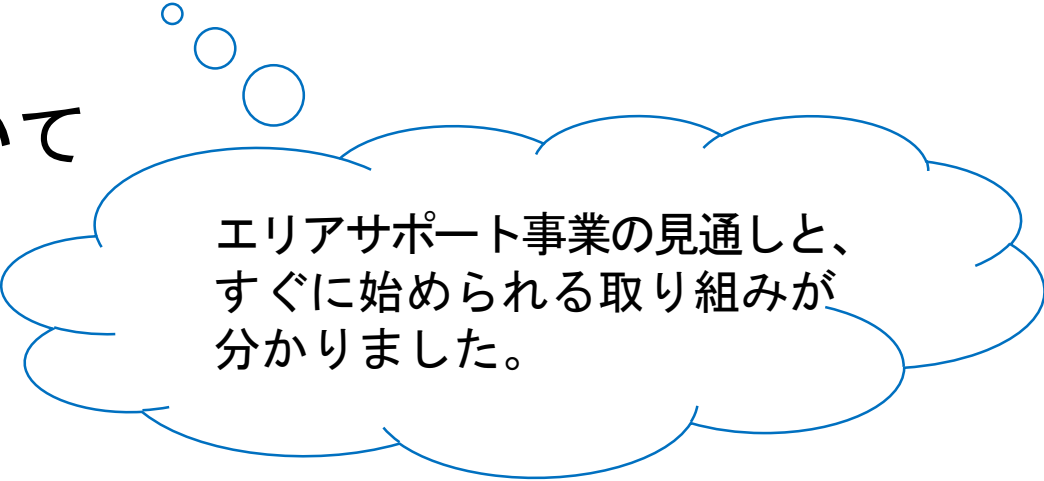
① 7月1日「みんなが活躍できる授業を実施するために押さえておきたいこと」

講師：群馬県教育委員会特別支援教育課 長谷川 剛広 指導主事

内容・エリアサポート事業について

- ・発達障害について

- ・具体的な取り組みについて



エリアサポート事業の見通しと、
すぐに始められる取り組みが
分かりました。

② 7月25日「発達障害がある子どもへの支援」

講師：作業療法士 北爪 浩美 先生

内容・子どもの脳の発達について

- ・ 感覚を通じたコミュニケーションの発達
- ・ 運動発達と認知発達
- ・ 学習と視知覚認識

運動発達が未熟な
児童を見分ける方法

事例をもとに具体的な支援方法を学ぶことができました。



5. 保護者対象研修

① P T A 役員対象研修

日時：10月4日

内容：令和元年度エリアサポートモデル校事業について

講師：群馬県教育委員会特別支援教育課 長谷川 剛広 指導主事

②保護者対象研修

日時：11月22日

演題：「子どもの成長を促す接し方 ～脳の発達に視点を当てて～」

講師：作業療法士 北爪 浩美 先生



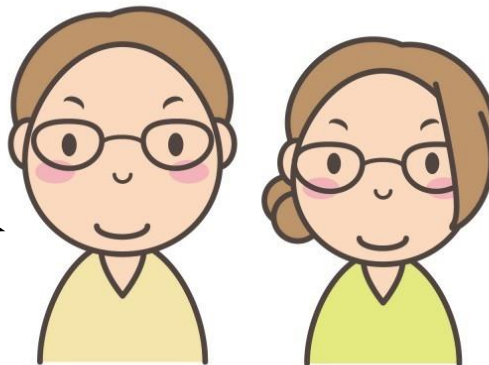
〈保護者の感想〉

説明を日常生活と照らし合わせていただき、分かりやすかったです。こうしなさいという押しつけではなく親の大変さも理解した話し方をしてくれたので、すんなり聞くことができました。

子どもの脳の発達について、親の接し方が重要になってくることを知り、今後に役立てていこうと思いました。

睡眠のことや脳への影響があるスマホやPCの使い方など、子どもの脳の成長に影響があることを子どもたちに、自宅で伝えていこうと思います。

生活リズムを改善し、ほめて認めてあげたいです。「ゲームやスマホは2時間以内」を今日から実行します。習い事があり、早く寝ることがなかなか難しいですが、休みの時は寝られるようにします。



6. ユニバーサルデザインの発想による環境整備

①学校全体での取組

〈担任の悩み〉

始業のチャイム後、全員の学習用具がそろわず、授業が始まらないことが多い。

〈担任の願い〉

始業のチャイムで、授業が始まるようにしたい。



次の時間の道具は
用意しましたか？



- ・教科書
- ・ノート
- ・ふでばこ
- ・下じき

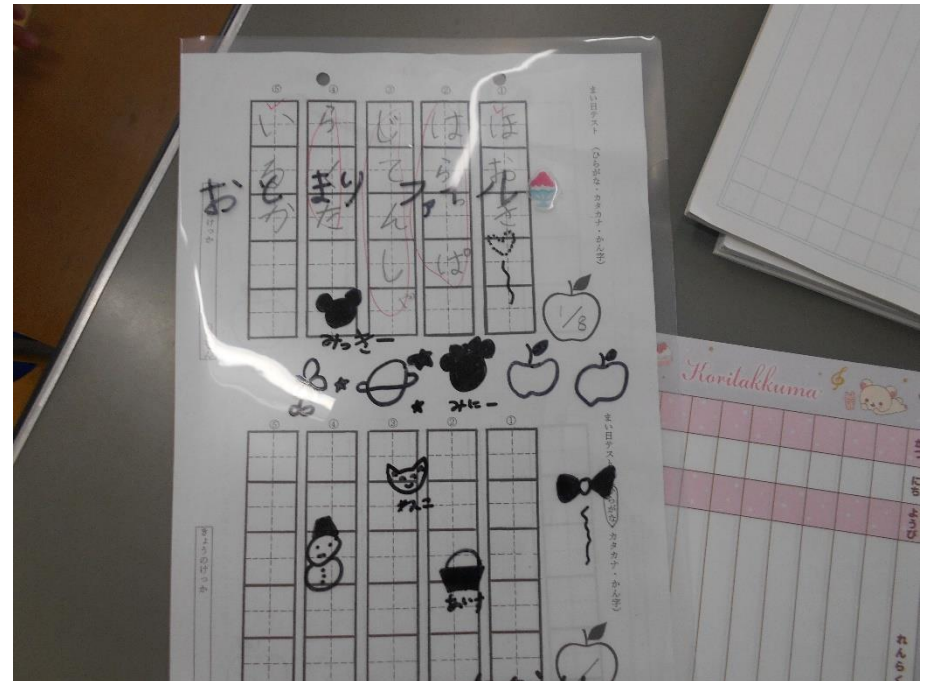
②学年ごとの取組

1年

授業で途中までしか終わらなかったプリントや寺子屋プリントの答えなどを、子どもたち自身に管理させると、いざ使用する時に、プリントがぐちゃぐちゃになっていたり、紛失してしまっていたりということがあった。この悩みを学力向上CDに相談して授業中に終わらなかったプリントや寺子屋プリントの答えなどを、「お泊まりファイル」にしまうようにした。「お泊まりファイル」は1人1個用意して、持ち帰らずに引き出しに入れておくことにした。



子どもたちは、保管場所に迷うことなく活動することができるようになった。また、プリントを使用する際に探す手間が省け、学習や作業の能率が上がった。子どもたちも必要なプリントをすぐに見つけることができ、満足そうな様子であった。



1年

昨年度2年生を担当した際には、黒板上に掲示物を貼っており、授業に関係のない掲示物の話題などの話が児童の中で始まることがあった。そこで、黒板上の掲示物を取り外し整理をした。



板書をノートに写したり、黒板前で児童や教師が演示をしたりする際に、掲示物からのいらぬ情報を見ずに、集中して学習活動に取り組めるようになった。



5年

トイレ掃除をする際に、文だけでは分かりにくく、掃除の指導が大変だった。そこで、写真付きのものを作成し、掃除ロッカーに貼った。



実践後

トイレ掃除のやり方について、児童に聞かれることが少なくなり、進んで掃除をすることができる児童が増えた。

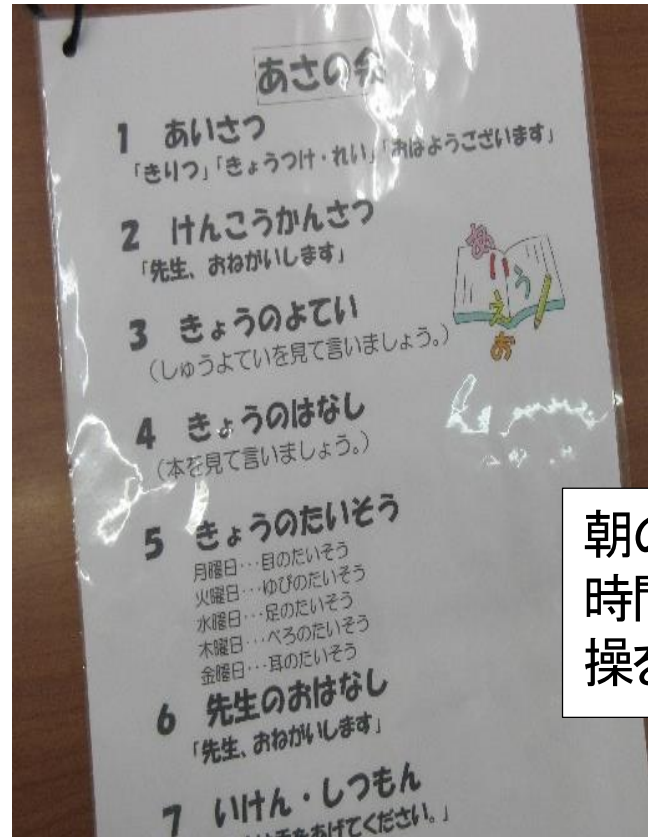


2年

追視の力を高めるために、曜日ごとに違う体操を行わせたことで、子どもたちも楽しそうに活動することができた。特に指の体操は、難易度が高く、休み時間などにも練習している児童が見受けられた。



目の体操に取り組んでいる様子



朝の会で「今日の体操」という時間を作り、目や指などの体操を取り入れた。

5年

毎朝提出する宿題の提出の仕方が雑だった。繰り返し指導してもあまり改善がなされず、提出の仕方についての指導から朝の会が始まることしばしばあった。そこで、提出する場所が「目で見たら分かる」ように箱を用意した。



実践後

子どもたちは、提出する場所がすぐに分かるので、間違わずに宿題を提出するようになった。そのことによって朝の会で提出の仕方の指導が減り、クラスで褒める材料になった。また、宿題の数を数えたり、採点したりすることが楽になった。



まとめ

○特配教員から

- ・資料提示の仕方、視覚的支援、ワークシートの工夫に重点をおいて授業を行った。
- ・提示物ひとつで子どもたちの理解度が変わることが分かった。

○校内研修主任から

- ・先生方の特別支援教育に対する意識が高まった。
- ・教科指導外のそうじ・給食などの指導について、学年が変わるごとに4月に指導をし直す現状がある。学校としてどの程度統一していくのかが今後の課題である。

○特別支援教育コーディネーターから

- ・5月の専門性向上委員会を受け、教室の環境整備について提案をした。全校で取り組むことは、簡単に誰でもできることとし、学年学級の実態に応じた取り組みは、2学期に実践、3学期にまとめを行った。

○邑楽町指導主事より

- ・中野小学校に、全職員でやろうとする雰囲気があったことが大きな成果につながった。
- ・特別支援教育のニーズがあったが、特別支援教育の視点は、全教員に必要な視点・要素である。
- ・この事業での成果を、邑楽町や東部管内に分かりやすくシンプルに発信してほしい。

○教育事務所指導主事より

- ・みんなで取り組むことの難しさを、取り組み方を選択制にすることで解消できていた。
- ・今年度の取り組みは、来年度につながる財産になる。

○専門アドバイザーより

- ・特別支援学校のセンター的機能を活用して、研修会の講師やケース会議でのスーパーバイズ等をお願いすることができるので、引き続きうまく活用していただきたい。

○石川京子先生(NPO法人リンケージ理事長)より

- ・「授業は、プレゼンテーション」と考えると、教師は子どもたちに「伝える」のではなく、「伝わる」手立てが必要という視点が生まれる。
- ・特別支援教育は、スモールステップ。机のマーク、授業の準備物の掲示物といった「誰がやっても成功できる」「ほんの少しのことで成功できる」ことから取り組んだことがよかった。
- ・「机をまっすぐに」「提出物が出ていない」「自分の当番は何？」などの指示や指導を外すことで、先生が本当に指導したいことに力と時間を使えるようになる。
- ・子どもは、大人を見本にする。そのために、先生の机の整理整頓や板書の文字、書き方など教師が気を付けたい。
- ・片付けの目的は、次のことにミスをなくすため、次のことにすぐ取りかけられるようにするために大切である。

○学校長より

- ・教職員の意識の変化が見られた。
- ・今後の取り組みを来年度、どのように生かし広げていくのかが今後の課題になる。